

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
日本語表現 Japanese Expression	必修	4年	M E C B	橋本博美（非常勤） 石塚政吾 工藤一紘（非常勤） 水野 麗	2	通年週2時間 (合計60時間)	
<p>〔教材〕 教科書：『国語表現Ⅱ』京都書房。 補助教材：『小論文頻出テーマ集』第一学習社、『基礎からの国語表現の実践』京都書房、その他自製プリント。 辞書：国語辞典、または電子辞書。</p>							
<p>〔授業の目標と概要〕 将来の社会人として必要不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見文や小論文、また実用的な文章が書けるようになる。また プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方についても習熟する。</p>							
<p>〔授業の進め方〕 演習形式で進める。教科書の単元に沿って課題文を書き、日本語の語彙や敬語の習得、正しい文章や履歴書、手紙の書き方などをプリントや原稿用紙を用いて学習していく。また口頭発表や討論の仕方についても学習する。評価が合格点に達しなかった場合、課題を再提出させることがある。</p>							
〔授業内容〕							
授 業 項 目		時間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 表現の基礎		2	正確で丁寧な履歴書が書ける。				
(1) 履歴書の書き方		3	日本語の意味や語感の問題について説明できる。				
(2) 言葉の意味と語感		2	対立する考えについて自分の意見を述べることができる。				
(3) 考えるということ		2					
2 文章の読み取り		2	段落に基いた文章構成を説明できる。				
(1) 文章の構成		4	悪文の間違いを指摘し正しい文に直すことができる。				
(2) 悪文の修正		4	文章の要約文を適切に作るすることができる。				
(3) 要約の方法		4	表やグラフのデータを正確に読み取ることができる。				
(4) データの読み取り		2	短歌、俳句、川柳などの創作ができる。				
3 種々の表現		2	敬語について理解を深め正確に運用できる。				
(1) 韻文の創作		2	個人や企業に対して適切な手紙文が書ける。				
(2) 敬語表現		2	案内状などの適切な葉書が書ける。				
(3) 手紙の書き方		2					
(4) 葉書の書き方		なし					
前期期末試験		なし					
4 意見を述べるⅠ		4	インターンシップでの感想を発表し、また他人の発表を聞いて質問ができる。				
(1) 発表とディスカッション		8	ディベートに参加して討論ができる。				
(2) ディベート		2	意見文の構成について説明できる。				
5 意見を述べるⅡ		2	意見文の適切な主題を作ることができる。				
(1) 意見文の構成		4	意見文をテーマに即して書くことができる				
(2) 主題作りと主題分析		6	小論文を適切に書くことができる				
(3) 意見文の表現		2	企業の課題に応じたエントリーシートが書ける。				
(4) 小論文の表現		2	本授業のまとめとファイル点検。授業アンケート。				
(5) エントリーシートの書き方		2					
(5) まとめ		なし					
学年末試験		なし					
〔到達目標〕 日本語の語彙や文の組み立て、文章の構成についてよく理解し、自分の意見を確立して、それを書くこと・話すことの両面において場面や問題に応じ適切に運用・発表できるようになること。							
〔評価方法〕 合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノートの点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。							
〔認証評価関連科目〕 国語ⅠA、国語ⅠB、国語Ⅱ、国語Ⅲ							
〔JABEE関連科目〕							
〔学習上の注意〕 普段から新聞やTVのニュースをよく見聞き、日本語や社会の抱える問題について知識を広くもちそれらのさまざまな面について自分の考えを深めておくようにすること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	秋田高専学習・ 教育目標	D-1	JABEE基準	f		

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
スポーツ教育 I Sports Education I	必修	4年	M	渡邊 朋雄	1	後期週2時間 (合計30時間)	
[教材]							
[授業の目標と概要] スポーツ各種目の特性にふれ、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、自分にあった、体育・スポーツ活動を実践する姿勢を養う。							
[授業の進め方] 実技演習形式で行い、課題のチェックや各種の小テストを随時行う。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
1 授業のガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
2 共通・個人課題 (1) フリースロー (2) 位相差運動 (3) 個人目標設定	毎時間	毎時間チャレンジする中で、精度を高めて行くことができる。 各種の位相差運動を習得、実践できる。 ナワとび等の課題を各自選択し、個人目標達成を目指して実践できる。					
3 選択Ⅰ(屋内球技等) (1) ジョギング (2) サッカー (3) テニス(軟式・硬式) (4) ソフトボール	13	自己の体力や目標にあったペースや時間を設定し、実践できる。 ドリブルやパスなどを、ゲームの中で活用できる。 フォアやバックを使い分け、ゲームができる。 基本技能をゲームの中で活用できる。					
4 選択Ⅱ(屋内・外球技等) (1) ウェイトトレーニング (2) バイクトレーニング (3) 卓球 (4) バドミントン (5) バスケットボール (6) ソフトボール (7) サッカー (8) テニス	14	自己の目的に合った種目を組み合わせて、安全に実施できる。 自己の体力に合わせた負荷を選択し、安全に実施できる。 サーブやスマッシュを活用したゲームができる。 ロングやショートを使い分け、ゲームができる。 基本技能を活用し、より高度なゲームを楽しむことができる。 より堅実な守備やバッティングが、ゲームの中で活用できる。 基本技能を活用し、より高度なゲームを楽しむことができる。 基本技能を活用し、より高度なゲームを楽しむことができる。					
	2	授業アンケートと本授業のまとめを行う。					
[到達目標] 個人ごとに、種目別、教材別の問題や課題を発見して個人目標を設定し、各自にあったスポーツの楽しさを味わうとともに、生涯を通じた実践力を身につける。							
[評価方法] 出席状況や欠課措置の内容等を30%、体育カードの提出・記載内容、各種実技の小テスト、共通・個人課題の取り組み、安全配慮・マナー等を70%とし、定期試験は行わない。合格点は60点以上とする。 総合評価 = 出欠状況等(30点) + 体育カード(20点) + 実技(20点) + 課題等(20点) + マナー等(10点)							
[認証評価関連科目]		保健体育Ⅰ, 保健体育Ⅱ, 保健体育Ⅲ, スポーツ教育Ⅱ					
[JABEE関連科目]		スポーツ教育Ⅱ					
[学習上の注意] 用器具の取り扱いや服装等、安全確保に必要な事項を理解させ、活動の環境に十分に配慮する。							
達成しようとしている基本的な成果	(A)	秋田高専学習・教育目標	C-4	JABEE基準	h		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
総合英語 I General English I	必修	4年	M・E	チェケッツ・明子 (非常勤)	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教 材] 教科書：「Intensive Training for the TOEIC Test」 成美堂 副教材：「ALC NetAcademy2」「新TOEICテストにできる順英単語」中経出版「deep listening Level 2」日本英語検定協会 その他：英和・和英辞典 自製のプリントの配布							
[授業の目標と概要] TOEICの問題演習を通して実用英語を習得する。							
[授業の進め方] 演習形式で授業を行い、小テストを随時実施する。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス・e-learning ガイダンス ・ Intensive Training Preliminary Lesson Lesson 1 写真描写問題 Lesson 2 応答問題 Lesson 3 会話問題 ・ ALC NetAcademy2		1 13	授業の進め方と評価の仕方、ALC NetAcademy2について説明する。 現在の実力がわかる。 リスニングの写真描写問題を聴き、理解できる。 リスニングの応答問題で、質問と答えの繋がりを理解できる。 リスニングの会話問題を聴き、理解できる。 課題を通して英語力を確立することができる。				
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答 ・ Intensive Training Lesson 4 説明文問題 Lesson 5 短文穴埋め問題 ・ TOEIC 模擬試験 ・ ALC NetAcademy2		1 10 3	前期中間試験の解説と解答 リスニングの高度な説明文問題を理解できる。 リーディングにおける語法問題を理解できる。 自分の実力を把握できる。 課題を通して英語力を確立することができる。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、授業アンケート				
・ Intensive Training Lesson 6 長文穴埋め問題 Lesson 7 長文読解問題 ・ ALC NetAcademy2		1 6	リーディングにおける高度な語法問題を理解できる。 リーディングにおける様々なトピックの読解問題を理解できる。 課題を通して英語力を確立することができる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答 ・ Intensive Training Practice Test テスト対策 ・ 復習		1 4 7	後期中間試験の解説と解答 実践練習をしながら、IPテストの準備ができる。 学習してきたことを確立することができる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	試験の解説と解答、授業アンケート、本授業のまとめ				
[到達目標] 語彙を増やし、英文の意味を正確に、速く読み取る力と、TOEICスコア400点以上の英語力を身につけるのが目標である。							
[評価方法] 合格点は60点である。前期中間、前期末、後期中間成績を、小テスト・課題の結果を30%、リスニングテスト20%、筆記試験50%で評価する。学年末成績を、TOEIC IPテスト50%、筆記試験50%で評価する。 学年総合成績＝(前期中間成績＋前期末成績＋後期中間成績＋学年末成績) / 4							
[認証評価関連科目] 英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英文法Ⅰ・Ⅱ、英語LL演習、英語会話、総合英語Ⅱ、上級英語							
[JABEE関連科目] 総合英語Ⅱ、工業英語、上級英語、(応用英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)							
[学習上の注意] 英語の力を付けるには多くの時間をかけなければならない事を認識する。授業の基礎となる小テストの準備をし、授業では1つでも多くの表現を習得する心構えで真剣に取り組む。							
達成しようとしている 基本的な成果	(C)	秋田高専学習 ・教育目標	D-2	JABEE基準	a , f		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
ドイツ語 German	必修	4年	M E C B	桑本裕二	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教 材] 教科書：『Lecker! Lecker! Lecker! おいしく学ぶドイツ語』 郁文堂							
[授業の目標と概要] ドイツ語の初等文法を身につける。完全な文法事項の把握というよりは、英語といかに違うのか、あるいは似ているのかを認識し、それらの背景知識がひいては英語学習の手助けとなることを望む。							
[授業の進め方] 演習形式で行います。教科書に沿って授業を進めます。適宜、辞書のひき方なども確認します。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがあります。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
アルファベート・あいさつの言葉		1	アルファベート・挨拶の言葉を理解できる。				
1. 動詞の形・動詞の位置		4	動詞の現在活用、語順について理解できる。				
2. 冠詞と名詞の形		4	冠詞と名詞の格変化について理解できる。				
3. 語幹が代わる動詞・命令の形		4	動詞の不規則な現在活用・命令形について理解できる。				
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
4. 冠詞のそっくりさんたち		4	数詞・冠詞類・指示代名詞について理解できる。				
5. ich, du er などの3格と4格・前置詞の相手		4	人称代名詞の格変化・前置詞の格支配について理解できる。				
6. 助動詞を使った文・未来形があらわすもの		5	話法の助動詞・未来時称について理解できる。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート				
7. ふたつに分かれる動詞・もう一人の自分・語順を替える接続詞		4	分離動詞・再帰動詞・従属の接続詞と語順について理解できる。				
8. 形容詞の語尾・形容詞の名詞への変身		5	形容詞の格変化・形容詞猪名詞化について理解できる。				
9. 動詞の3つの重要な形・過去をあらわす動詞の形		5	動詞の3基本形・過去人称変化について理解できる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	後期中間試験の解説と解答				
10. 完了形はhabenまたはseinと過去分詞で		4	完了時称について理解できる。				
11. 比較の表現・zuのつく不定詞		4	形容詞の比較・zu不定詞について理解できる。				
13. 「…される」という言い方・動詞の形容詞への変身		5	受動・現在分詞について理解できる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート				
[到達目標] ドイツ語の文法について一通りの理解をし、辞書を使えばどうにか簡単な文章なら理解できるという程度をめざす。							
[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末の成績は、試験結果100%で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4							
[認証評価関連科目]							
[JABEE関連科目]							
[学習上の注意] 本科目は、英語で求められるような高度な語学運用力を養うものではない。英語との比較で様々な異同を感じられれば十分である。予習や宿題は一切必要としない。そのかわり授業の参加による理解が全てである。このことを肝に銘じ、熱心な授業参加を心がけてほしい。							
達成しようとしている基本的な成果	(C)	秋田高専学習・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科	担当教員	単位数	授 業 時 間	自学自習時間
応用化学 Applied Chemistry	選択	4 年	M E B	佐藤 彰彦	1	後期週 2 時間 (合計 30 時間)	
[教 材] 教科書 : 応用化学テキスト (秋田高専編)							
[授業の目標と概要] 化学は物質の構造、性質、変化等を直接取り扱う学問である。本教科では化学Iの内容について、更に深い知識と思考を身につけると共に、物理化学を中心とした自然科学の基本的知識を修得する。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。適宜、小テストの実施・レポートの提出を求める。なお、中間試験は授業時間内に実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 原子の構造と化学結合		3	電子の軌道と電子配置が理解できる。				
(1) 原子の構造と周期律		4	イオン結合、共有結合、金属結合と分子間力が理解できる。				
(2) 化学結合と結晶構造							
2 状態変化		2	蒸気圧を理解し状態図を読み取ることができる。				
(1) 蒸気圧と蒸気圧曲線		2	ボイル・シャルルの法則と気体の状態方程式が理解できる。				
(2) 理想気体と実在気体		2	沸点上昇、凝固点降下が理解できる				
(3) 溶液の性質							
後期中間試験		—	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。				
試験の解説と解答		2	後期中間試験の解説と解答。				
3 化学反応		4	ヘスの法則を理解し種々の反応熱を求めることができる。				
(1) 化学反応と反応熱		2	速い反応・遅い反応などの、反応の速さの表現ができる。				
(2) 反応速度		4	可逆反応を用いて、化学平衡の状態が理解できる。				
(3) 可逆反応と化学平衡		2	化学反応を進める要因が理解できる。				
(4) 反応の進む方向と自由エネルギー変化							
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート				
[到達目標] 化学反応の速さを支配する原因を理解し、化学反応の速さと平衡について様々な法則・原理を用いて、物質の変化に関する基本的知識を修得する。							
[評価方法] 合格点は60点である。後期中間成績と学年末成績の平均を学年総成績とする。各成績は、試験成績80%、小テスト・レポートの結果を20%で評価する。特にレポートの未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。学年総成績＝(後期中間成績＋学年末成績) / 2							
[認証評価関連科目] 化学 I、化学 II							
[J A B E E 関連科目]							
[学習上の注意] テキスト章末の練習問題は必ず解くこと、より深い知識を自分自身で身につける努力が必要である。							
達成しようとしている 基本的な成果	(B)	秋田高専学習 ・教育目標	B - 1	J A B E E 基準	C		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間																																										
社会と文化 Society & Culture	選択	4年	M E C B	長井栄二	1	前期週2時間 (合計30時間)																																											
<p>[教 材] 参考書：「日本経済読本[第16版]」 金森久雄編 東洋経済新報社 「EUは国家を超えられるか」 平島健司著 岩波書店 その他： 自製プリントの配布</p>																																																	
<p>[授業の目標と概要] 戦後の日本、およびヨーロッパ近現代における地域をめぐる問題を多様な観点から学ぶことにより、現代日本が置かれている問題状況を相対的に考察していくための基礎視角を習得する。</p>																																																	
<p>[授業の進め方] 講義形式で行う。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。</p>																																																	
<p>[授業内容]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授 業 項 目</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業のガイダンス</td> <td>1</td> <td>授業の進め方と評価の仕方について説明する。</td> </tr> <tr> <td>1 地域問題と地域政策</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 序論</td> <td>1</td> <td>地域政策の定義を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(2) 戦後日本の地域問題</td> <td>8</td> <td>戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(3) 近代ドイツの地域政策</td> <td>4</td> <td>大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>前期中間試験</td> <td>1</td> <td>上記項目について学習した内容の理解度を確認する。</td> </tr> <tr> <td>試験の解説と解答</td> <td>1</td> <td>前期中間試験の解説と解答</td> </tr> <tr> <td>2 戦後の欧州統合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 序論</td> <td>1</td> <td>現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域統合の過程</td> <td>8</td> <td>欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。</td> </tr> <tr> <td>(3) 統合の現状</td> <td>4</td> <td>欧州統合の現状に関する事例を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>あり</td> <td>上記項目について学習した内容の理解度を確認する。</td> </tr> <tr> <td>試験の解説と解答</td> <td>2</td> <td>前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート</td> </tr> </tbody> </table>								授 業 項 目	時 間	内 容	授業のガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	1 地域問題と地域政策			(1) 序論	1	地域政策の定義を学ぶ。	(2) 戦後日本の地域問題	8	戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。	(3) 近代ドイツの地域政策	4	大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。	前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答	2 戦後の欧州統合			(1) 序論	1	現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。	(2) 地域統合の過程	8	欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。	(3) 統合の現状	4	欧州統合の現状に関する事例を学ぶ。	前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート
授 業 項 目	時 間	内 容																																															
授業のガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。																																															
1 地域問題と地域政策																																																	
(1) 序論	1	地域政策の定義を学ぶ。																																															
(2) 戦後日本の地域問題	8	戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。																																															
(3) 近代ドイツの地域政策	4	大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。																																															
前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。																																															
試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答																																															
2 戦後の欧州統合																																																	
(1) 序論	1	現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。																																															
(2) 地域統合の過程	8	欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。																																															
(3) 統合の現状	4	欧州統合の現状に関する事例を学ぶ。																																															
前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。																																															
試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート																																															
<p>[到達目標] 戦後日本の地域格差問題を相対化できるようになること。 戦後の欧州における地域統合の特質を捉えることができるようになること。</p>																																																	
<p>[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末の成績は、いずれも試験結果で評価する。 学年総合成績 = (中間成績 + 期末成績) / 2。</p>																																																	
<p>[認証評価関連科目] 現代社会、人類史Ⅰ、人類史Ⅱ、(科学技術史)、(技術者倫理)</p>																																																	
<p>[J A B E E 関連科目] (日本文化論)、(社会経済史)</p>																																																	
<p>[学習上の注意] 今日の諸地域や世界の情勢について関心に向け、複数のメディアを通じて情報に触れておくこと。様々な見解を相対的に捉え、各自が自分なりに問題を整理する習慣を身に付けていくことが重要である。</p>																																																	
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	秋田高専学習 ・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a																																												

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
社会と文化 Society & Culture	選択	4年	M E C B	桑本裕二	1	前期週2時間 (合計30時間)	
[教 材] 『中国語のしくみ』白水社							
[授業の目標と概要] 中華人民共和国、台湾で、漢民族の間で話されている中国語（北京官話）の文法の初歩を学びます。							
[授業の進め方] 講義および演習形式。市宇検結果が合格点に達しない場合、再試験を求めることがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
i							
1. 文字と発音のしくみ			左記内容について理解する。				
2. 書き方と語のしくみ			左記内容について理解する。				
3. 文のしくみ			左記内容について理解する。				
ii							
1. 区別のしくみ			左記内容について理解する。				

2. 動作のしくみ			左記内容について理解する。				
3. 「てにをは」のしくみ			左記内容について理解する。				
4. 数のしくみ			左記内容について理解する。				
5. 実際のしくみ			左記内容について理解する。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答，および授業アンケート				
[到達目標] 中国語の言語体系について大まかにとらえること。							
[評価方法] 合格点は60点である。前期末の成績は、試験結果100%で評価する。							
[認証評価関連科目] 現代社会，人類史Ⅰ・Ⅱ，科学技術史，技術者倫理							
[JABEE関連科目] 社会と文化，（日本文化論），(社会経済史)							
[学習上の注意] 日本語で使われる漢字とは少し字形の違う簡体字について、また、日本語や英語のアクセントとは違う音調である声調についての知識を中心にして、あいさつやその他のごく簡単な文法の習得を目指します。							
達成しようとしている基本的な成果	(A)	秋田高専学習・教育目標	A-1	J A B E E基準	a		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
科学技術社会史 Social History of Technology	選択	4 年	M E C B	脇野 博 脇野 博 脇野 博 脇野 博	1	前期週 2 時間 (合計 3 0 時間)	
[教 材] その他：自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] キャリア教育における企業研究も兼ね、19世紀後半以降を中心に、科学技術と企業の関係を歴史的に考察する。							
[授業の進め方] 講義形式で行う。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。 なお、中間試験は授業時間内に実施する。							
[授業内容]							
授 業 項 目			時 間	内 容			
授業ガイダンス			1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
1 19世紀の科学技術と企業							
(1)産業革命と起業			4	産業革命と科学技術・企業の関係を理解できる			
(2)重工業・鉄道と企業			5	重工業や鉄道の発展と科学技術・企業の関係を理解できる			
(3)化学工業と企業			4	化学工業の成立と科学技術・企業の関係を理解できる			
前期中間試験			—	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。			
試験の解説と解答			1	前期中間試験の解説と解答			
2 20世紀の科学技術と企業							
(1)重化学工業と企業			5	重化学工業の発展と科学技術・企業の新たな関係を理解できる			
(2)ネット社会と企業			4	情報化社会の展開と科学技術・企業の関係を理解できる			
(3)バイオテクノロジーと企業			4	生命を操作できる社会と科学技術・企業の関係を理解できる			
前期末試験			あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
試験の解説と解答			2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート			
[到達目標] 科学技術と社会の関係を歴史的に考察・理解する上で必要不可欠な学術的要素を身につけ、現代の科学技術と社会の関係について主体的に問題発見し、考察が出来るようになること。							
[評価方法] 合格点は 60 点である。中間・期末の成績は試験結果で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2							
[認証評価関連科目] 現代社会, 人類史Ⅰ・Ⅱ, 科学技術史, 人類史Ⅱ, 技術者倫理							
[J A B E E 関連科目] 社会と文化, (日本文化論), (社会経済史)							
[学習上の注意] 科学技術史の文献, 歴史資料や企業情報を調べ, 情報を整理すること。様々な見方を相対的に捉え整理することがポイントである。							
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	学習・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a		